

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	令和6年2月15日
タイトル	「芦田川水族館」スイゲンゼニタナゴ水槽展示！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

令和6年2月11日（日）福山市内のまなびの館ローズコムにおいて、「芦田川水族館」として芦田川や農業水路で生息する生き物の水槽展示がされましたので取材しました。

この展示は、福山市若者・くらしの悩み相談課が主催する「福山夢未来開花プロジェクト」の中で「未来づくりコース」として福山市内の学生による「学生環境保全連盟」が企画開催されたものです。

福山市内を流れる一級河川の芦田川から取水する「芦田川用水」は疏水百選に選ばれており、水土里ネット福山が一員となる「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が啓発パネルの貸出等で協力しました。

スイゲンゼニタナゴは、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で国内希少野生動物種に選定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。国内では岡山県と広島県に生息しており、広島県では芦田川水系にのみ生息が確認されています。

会場には家族連の方が多く来館され、展示されている水槽の魚など熱心に見ておられました。スイゲンゼニタナゴの事もご存知の方が多くおられ、水槽で元気に泳いでいる姿を生で見られる貴重な機会とあって近くに寄って見ておられました。

「学生環境保全連盟」の皆さんは、小さなお子さんが水槽に顔を近づけて見入っていると魚の種類などを詳しく教えてあげていました。



「学生環境保全連盟」の一人、近畿大学附属福山高校2年生で同校科学部部長の猪原桃也さんにお話しを伺いました。

猪原さんは、芦田川や芦田川水系の農業用水路で多くの生き物を観察しているそうですが、小さな子どもが水辺の生き物に触れ合う機会がないため、今回の展示をきっかけに興味や関心を持ってほしいと話してくれました。

また、農業用水路の水草は、魚など生き物の生息には欠かせないが、浸水被害の原因となるため撤去しなければならない事など環境に配慮した治水の有り方について話しました。

スイゲンゼニタナゴをはじめとした農業用水路に生息する様々な生物や植物が共存する自然環境を保全することが大切であること、また、子ども達が安心安全に水辺に親しめる環境が必要だと改めて感じました。

水土里ネット福山ではスイゲンゼニタナゴの保全を通じて、農業用水路の健全な維持管理や用水の安定確保とともに水辺環境の保全に努め、農業用水路の役割と重要性を発信してまいります。